

橋梁補修工事 ～ウォータージェット作業をサポート～

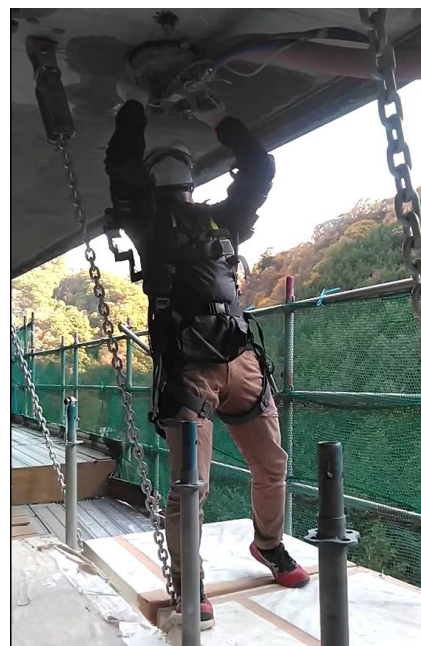
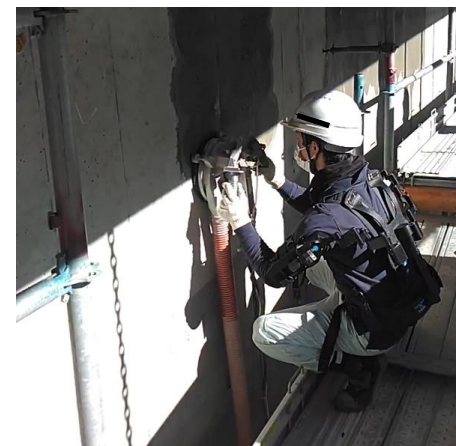
ウォータージェット（以下WJ）工法は、高負荷であり肉体疲労が大きい作業。「負担を軽減し安定的に作業を行えるような環境を作りたい」と、多くの企業からお問い合わせを受けており、作業改善は急務である。今回お客様のご厚意で、橋梁補修作業でTASK AR2.0（パワータイプ）が負担軽減につながるかどうか、適正作業を見極める意図で現場提供をいただきました。

現場、作業状況の概要

- ・ 橋梁更新工事現場（箱桁状のコンクリート橋）。
- ・ 炭素繊維シート補強のための壁面をWJにて下地処理をする。
- ・ 作業は負担が大きいため4名1組交代制にて実施。
- ・ 安全帯の上からでも問題なくアシストスーツを着用でき、作業員の方3名にWJ作業で試していただいた。

体験レポート① 側面の壁面作業

ワークを水平方向で維持することは効果なし。アシストの反発と脇の開きを抑える必要があるため逆に負荷が大きく辛い。効果がある胸から上の位置をまとめて作業するなど段取りを変更するなどを提案。



体験レポート② 上向きの壁面作業

上向きのWJ作業はTASK ARが効果を最も発揮する姿勢であり、作業員3名にも高評価であった（アシスト位置はハイポジションに設定変更）。ただし、アシスト位置の変更やトルク調整が着用したままできない点が残念という感想も。
箱桁橋の上向き姿勢でのWJ作業には非常に有効だと思います（担当 西）。

